

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月6日現在

機関番号：12605

研究種目：基盤研究（B）（海外）

研究期間：2008～2011

課題番号：20402036

研究課題名（和文） 中国における人口と環境  
－高齢化・社会保障・出生性比からみた一人っ子政策 29 年

研究課題名（英文） Population and Environment Issue in P.R. China

研究代表者

若林 敬子（WAKABAYASHI KEIKO）

東京農工大学・本部・名誉教授

研究者番号：60293015

研究成果の概要（和文）：本研究は中国人口問題についての社会学的実証調査研究であり、特に国策として位置づけられている“人口と環境”問題について、今回は、高齢化・社会保障・出生性比の視点から多角的なアプローチを行ってきた。都市（上海市、北京市）、農村（湖南、海南、内モンゴル）の5地区で本格的な社会学的サンプリング調査、量的・質的調査をこれまでにを行い、その問題点を総合的にあぶりだすことに成功した。また、その理論的・実証的な比較と総括をまとめあげ、中国の人口問題の社会学的研究の最新結果の公表・刊行した。

研究成果の概要（英文）：This research project aims to carry out the analysis on the current situation and issues concerning China's population and environment, especially the current life situation of China's elderly people and the impacts of population aging on Chinese society. From the year 2008 to 2012, five questionnaire surveys regarding the elderly people's life were conducted. The three surveys concerning the life situation of the elderly and their social security in rural areas are as follows: the Hunan survey, the Hainan survey and the Inner Mongolia survey. The two questionnaire surveys concerning the life situation of the elderly and their social security in urban areas are as follows: the Shanghai survey and the Beijing survey. Furthermore, it also explores the impacts of population aging on China's individual family and the whole Chinese society. As the result, the book has been published and the science research report has been finished.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成20年度	2,800,000	840,000	3,640,000
平成21年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
平成22年度	2,500,000	750,000	3,250,000
平成23年度	2,000,000	600,000	2,600,000
総計	10,700,000	3,210,000	13,910,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：中国人口、環境、高齢化、社会保障、出生性比

## 1. 研究開始当初の背景

世界人口は 67 億人、内中国は 13.5 億人、この世界一の人口超大国の隣国・中国は、人口と環境の二つの課題を相関連する二大国策として位置づけ、その解決にむけてとりくんでいる。環境、とりわけ砂漠化・水土流失などの生態環境悪化で人間の居住できる範囲も限定されつつある。

世界が驚く一組の夫婦に子供 1 人を提唱するという一人っ子政策が 1979 年に開始され、33 年が経過した。

この一人っ子政策は、環境の視点から見れば“全国民の痛みを伴った最大の環境対策”だといえるが、これによって中国はいかなる光と影を生じたのかを人口社会学的に検証したい。

改革開放政策が進む中、平成 16～19 年度科研費では、都市化と人口流動という大課題—中国固有の戸籍制度が都市農村二元構造をつくりあげてきた中国社会構造の深層にかかわる問題に焦点をあてて、中国でのオリジナル実態調査を実施、新たな多くの成果を得た。

平成 20 年度からは、世界人口爆発を少しでも遅らせることを自国の責任としてうけとめ、国内的にも経済発展に突進してきた中国が、一人っ子政策の負の側面として、人口高齢化の急速な到来・社会保障改革や出生性比の不均衡拡大という難題に直面している。広大な中国において、地域格差は一層ひろがりつつあり、加えて社会階層格差の驚くべき拡大（地域的人口移動と階層的な社会移動）も同時並行しており、環境・貧困・民族問題も視点に入れつつ、人口社会学的実態調査を典型的な地域にて行い、今日の中国社会の全体像・課題を人口の視点からあぶりだしたい。

人口問題には、(1) 数量の問題、(2) 資質、リプロダクティブヘルスの問題、(3) 人口移動と分布、(4) 年齢構造の問題という 4 つの側面が存在するが、一人っ子政策という数の抑制が出生性比問題や人口高齢化にどのように関連するかである。

これまでの 4 年間にわたる流動人口の実態調査から (4) と (2) に若干焦点を移しつつ、全体として相互に関連する人口問題の総体を明らかにし、今日の激動する中国研究への学術的寄与を行いたい。いずれにせよ東アジア隣国の人口超大国・中国の日本への影響は絶大であり、緊急にして重要な研究課題である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、人口超大国の中国における人口と環境の問題、とりわけ厳しい賞罰制度も含めて 29 年前から始まった一人っ子政策が、今日および将来にいかなる意味をもつ

たか、またいかなる負の遺産に直面しているかについて、実証的な調査研究を通じて明らかにすることにある。特に本年度（過去 4 年間）までの人口流動・都市化の研究成果をうけつつ、今後は人口高齢化と社会保障及び出生性比不均衡問題に焦点・比重を移しつつ、人口社会学的的方法による日中の研究交流によって進めていきたい。

このことは、わが国日本が人口減少社会に到来、今後の経済を維持するために、労働力としての外国人（いわゆる補充移民）をどこまで流入させる政策を将来的に選択する可否か、日本の将来超長期ビジョンの検討にあたって、また東アジア論からしても避けて通れない重要課題となっている。

文献としては中国側文献もさることながら、後述の拙著・編および現在まとめつつある科研費報告書 1 がこれまでの成果の代表であり、今後の展開にあたって役に立つ。

## 3. 研究の方法

本研究では、初年度は、2000 年及び 2005 年 1%人口センサス結果の分析を行い、調査のねらい、調査対象地の決定、調査票を作成検討し、完成させた。

中国国家統計局より発表されつつある全国及び調査予定地に関するセンサス結果等の分析を行い、可能なかぎり今回必要とする調査の背景と問題点を浮上させた。2000 年人口センサス設計の問題点、例えば、漏れがなぜ 1.8% (2,291 万人) 生じたのか、そのすき間をうめるべく、どういう調査の内容や項目を作成する必要があるかなど。人口高齢化、社会保障、出生性比不均衡等に支柱をおきながら、以下の人口問題全般の分析をも並行フォローさせた。調査実施の背景として重要であった。

(1) 人口動態分析、出生・死亡、一人っ子率など、(2) 将来人口推計の独自作業、環境・食糧問題も含めて、(3) リプロダクティブヘルス・ライツ、教育・離婚・女性（出生性比の不均衡）問題、(4) 人口高齢化と社会保障制度改革をめぐる諸動向の把握、(5) なお人口をめぐる国際情勢—とりわけ米国ブッシュ共和党政権の人口政策をめぐる民主党との対立、国連人口基金 (UNFPA) への援助停止、対中国人口政策批判など、中絶をめぐる論議、世界人口の推移（インドやイスラム系の人口爆発とロシア人口減には特に注意）等、研究の背景についても分析した。

準備した調査票をもちつつ、調査対象地、協力機関、大学人口研究所を訪れ、協力挨拶、地域の特徴、構造分析、予備調査を実施した。試験的サンプリング調査をし、集計・分析、翌 2 年度目の本調査の準備とした。

21 年度より本調査を実施した。詳細は以下

とおりである。

(1) 既存統計とりわけ 2000 年人口センサス結果による全国及び調査、対象地（流出・流入の最も多くかつ人口高齢化の典型的な地域）の構造分析を進め、予備調査を行った。（平成 20 年度）

(2) 特に戸籍改革の現状調査を行った（全国統一して進行していないため）（平成 20 年度）

(3) 調査票（各 300 票以上×9 地区）配布、回収した。人口・計画出産委員会の国・省・市・街道・村民委員会の各レベルの協力を得た。（平成 21 年度）

(4) SPSS などを使って、地域別、学歴別、経済水準、民族別等による集計分析（平成 22 年度）

(5) 補正調査を行いつつ、総合的分析・最終報告書の作成と出版した（平成 23 年度）

また、本研究では次のような研究体制である。中国専門家として広く最先端で活躍する計 6 人の人口学・社会学の研究者たちの協力を得て組織構成した。加えて、中国側の研究者達、JICA 長期研修生（修士・博士課程修了生）や国費留学で力をつけた留学生らの協力も受けた。研究テーマ・メンバーの研究フィールドや出身地などに配慮して分担・担当しているので、調査票の作成や分析、宗族や儒教的男尊女卑など社会構造の底流分析についても深く協力しあえた。調査票を現地の実情にあわせて作成するため、調査票作成の際には中国側の人口社会学専門家の意見を大幅に取り入れた。

調査地：

(1) 南部  
都市

① 上海市（協力者：上海社会科学院左学金院長・人口研究所周海旺所長）

農村

② 湖南省（協力者：中山大学社会人類学系 周大鳴教授、田阡（後に西南大学に転職））

③ 海南省（協力者：中山大学社会人類学系・農村研究所 麻国慶教授）

(2) 北部  
都市

④ 北京市（協力者：清華大学人文社会科学院院長・社会学系主任 李強教授）

農村

⑤ 内モンゴル（協力者：清華大学人文社会科学院院長・社会学系主任 李強教授）

調査項目：(1) 出生・死亡・婚姻、教育程度別出生率、一人っ子率などの人口動態、

(2) 戸籍人口、人口センサスでの漏れ、出稼ぎ流出入人口数との比率、(3) 出生性比、中絶などのリプロダクティブ・ヘルス、(4) 人口高齢化と高齢者のホームなど施設および高齢者活動、(5) 一人っ子政策を守った農村老親への年金・社会保障

調査対象者：(1) 15～49 歳の出産適齢女子（未婚も含む）、(2) 65 歳以上高齢者、(3) 農村で一人っ子政策を守った 60 歳以上高齢者

#### 4. 研究成果

本研究は世界人口 70 億人、内 13.5 億人を超える人口超大国・隣国の中国の人口問題についての社会学的実証調査研究である。特に国策として位置づけられている“人口と環境”問題について、今回は、高齢化・社会保障・出生性比の視点から多角的なアプローチを行ってきた。

中国は 1979 年世界が驚く 1 組の夫婦に子供 1 人を提唱するといういわゆる“一人っ子政策”を開始し、奨励や罰金制度の導入と平行しつつ厳しい国策を 33 年間も続けてきている。

人口の抑制は、“痛みを伴うけれども最大の環境対策”であるともいわれ、中国の高度経済成長を推進する力（人口ボーナス期にも重なり）ともなったが、他方で急速な高齢化が、とりわけ 2030 年以降に進行することが必至であると予測されている。さらには、農村ではなお社会保障改革が不整備のままにかつ追いつかず、都市と農村および地域の格差を伴いつつ大きな国家的負担となっている。また、男尊女卑、老親扶養、あとつぎのための男児を欲するという出生性比の不均衡問題が大きな影をおとしている。

広大な中国にあつて、都市（上海市、北京市）、農村（湖南、海南、内モンゴル）の 5 地区で本格的社会的サンプリング調査、量的・質的調査をこれまでにを行い、その問題点を総合的にあぶりだすことに成功したと思っている。

最終年度の 2011（平成 23）年度には、その理論的・実証的な比較と総括をまとめあげた。また、日本との比較や東アジア論の中の位置づけも射程にいれつつ結論づけを導き、中国の人口問題の社会学的研究の最新結果の公表・刊行を行った。（若林敬子・聶海松・馮文猛著『中国における人口と環境—高齢化・社会保障・出生性比からみた一人っ子政策 32 年』（文科省科学研究費基盤研究 B 海外学術調査報告書）2008～2011 年度 2012 年 2 月 109pp）

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16 件)

- ① 若林敬子・馮文猛・聶海松「中国的老齡人口及社会保障—一个基于六省实证调查的社会学研究」『中国家庭研究』(上海社会科学院家庭研究中心編、中文) 第 5 卷, pp72-84, 2010 年 12 月 査読有
- ② 若林敬子・聶海松「中国都市部と農村部における高齡者の生活と社会保障—2008 年上海市・海南省の調査から」『日中社会学研究』(日中社会学会) 18 号, pp132-145, 2010 年 査読有
- ③ 若林敬子「中国の人口問題をめぐる最新事情—2000 万人巨大都市の上海市を含めて」, 日本国際問題研究所『国際問題』2010 年 7・8 月合併号 [第 593 号], 焦点: 深刻化する世界の人口問題, pp26-38, 2010 年 査読無
- ④ 若林敬子「中国の人口問題の現状と展望」, 日中経済協会『日中経協ジャーナル』No. 183, pp12-15, 2009 年 査読無
- ⑤ 若林敬子「人口から見た多民族国家中国」, 『環』vol. 34 特集多民族国家中国の試練, 藤原書店, pp170-183, 2008 年 査読無

[学会発表] (計 21 件)

- ① 若林敬子・聶海松 “Demographic Transition and Population Aging in China” (In English) The XIII World Congress of Rural Sociology in Lisbon Portugal (世界農村社会学会) 2012 年 7 月 29 日 於ポルトガルリスボン
- ② 若林敬子・聶海松「中国における人口高齡化」日本人口学会第 64 回大会 2012 年 6 月 3 日 於東京大学
- ③ 若林敬子・馮文猛・聶海松 “The Elderly and Social Security in China: One Empirical Sociological Study Based on the Surveys in Six Provinces” (第四回世界中国論壇・上海社会科学院国際会議), 2010 年 11 月 7 日 於上海
- ④ 若林敬子・聶海松「中国の高齡化をめぐる実証比較研究—上海・北京・海南・湖南・内モンゴルの調査から」日本村落研究学会 第 58 回(2010 年度)大会 2010 年 11 月 20 日 於東北大学(上田市) 若
- ⑤ 若林敬子・聶海松「中国都市部と農村部における高齡者の生活と社会保障—上海・北京・湖南・海南・内モンゴルの調査から」日本現代中国学会 第 60 回大会

2010 年 10 月 17 日 於中央大学多摩キャンパス

- ⑥ 若林敬子・馮文猛 “The Recent Migration in China: One Empirical Sociological Study Based on the Surveys in Beijing, Shanghai, Guangdong and Sichuan” (第三回世界中国学論壇・上海社会科学院創設 50 周年記念国際会議), 2008 年 9 月 8 日 於上海
- ⑦ 若林敬子・馮文猛 “Rural-urban Migration in China: The Latest Changes and The Implication for Chinese Rural Society” (In English) The XII World Congress of Rural Sociology, Goyang, KOREA (世界農村社会学会) 2008 年 7 月 7 日 於ソウル

[図書] (計 10 件)

- ① 若林敬子・聶海松・馮文猛著『中国人口問題の年譜と統計: 1949~2012 年』御茶の水書房, 2012 年 11 月 (刊行予定), 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)
- ② 若林敬子・聶海松・馮文猛著『中国における人口と環境—高齡化・社会保障・出生性比からみた一人っ子政策の 32 年』, 文科省科研費基盤研究(B) 海外学術調査 2008-2011 年度(課題番号: 20402036) 2012 年, pp110
- ③ 若林敬子著『日本のむらむら、昔と今—人口からみた九篇』ハーベスト社, 2011 年, 201pp
- ④ 若林敬子「中国における人口政策の変遷と公共観の変貌」藤田弘夫編著『東アジアにおける公共性の変容』慶応義塾大学出版会, 2010 年, pp125-141
- ⑤ 若林敬子著『日本の人口問題と社会的現実』, 第 I 巻 理論篇 471pp, 第 II 巻 モノグラフ篇 380pp, 東京農工大学出版会, 2009 年
- ⑥ 若林敬子著『沖縄の人口問題と社会的現実』, 東信堂, 2009 年, 230pp
- ⑦ 馮文猛著・若林敬子推薦, 『中国の人口移動と社会的現実』, 東信堂, 2009 年, 230 pp

6. 研究組織

(1) 研究代表者

若林 敬子 (WAKABAYASHI KEIKO)

東京農工大学・本部・名誉教授

研究者番号：60293015

研究協力者

聶 海松 (NIE HAISONG)

東京農工大学・女性未来育成機構・助教

馮 文猛 (FENG WENMENG)

中国発展研究基金会・研究部・研究員

左学金 (ZUO XUEJIN)

上海社会科学院・院長

周海旺 (ZHOU HAIWANG)

上海社会科学院・人口研究所・所長

周大鳴 (ZHOU DAMING)

中山大学・社会人類学系・教授

麻国慶 (MA GUOQING)

中山大学・社会人類学系・農村研究所・  
教授

李強 (LI QIANG)

清華大学・人文社会科学院・院長  
社会学系・主任・教授